

## 1 単元について

## 【単元観】

四季が丘は、山を切り拓き、昭和62年に分譲を開始した団地である。土砂災害の危険性を想定して、地域には5基の砂防堰堤が設置されている。大規模住宅団地の背後における短期集中的な砂防堰堤群の整備、環境・景観に十分配慮した工事の実施、小学校への出前講座の実施、発生土を用いた小学校でのピオトープの設置など地域との良好な関係を築いての工事の完成を評価され、平成23年度に、宮園・四季が丘地区砂防事業が全建賞（全日本建設技術協会主催）を受賞した。また、防災の取組については、平成16年に四季が丘地区自主防災連絡協議会が発足し、防災マップの作成や防災ウォーキング、全町内会での防災訓練、大学教授による防災講演会など、自主防災活動が継続的に実施されている。平成26年からは、市と連携し、「チャレンジぼうさい in 四季が丘」を立ち上げ、「災害」・「まち」・「ひと」を知ることが『防災』に繋がることを伝え、地区住民の防災意識の底上げに取り組んでいる。

本単元では、自分たちの住む地域で起こり得る自然災害の一つである土砂災害を取り上げる。理科を中心とした教科での学びを活用しながら土砂災害の現象・種類・メカニズム・対策等を知り、科学的な姿勢で災害と向き合うことを大切に展開する。また、本単元での体験をもとに、地域の役に立ちたいという思いの実現に向け、災害時に自分たちができることについて考え、地域の防災・減災につなぐ発信活動を通して設定した資質・能力の育成をねらいとする。

## 【児童観】

本学年の児童は、前学年の総合的な学習の時間において、地域の防災に関する取組について調べたことをリーフレットにまとめたり、手作り防災訓練を企画して保護者や地域に発信したりすることを通して、災害に対する日頃の備えや地域での絆づくりの大切さに気付くことができた。また、昨年度末の「廿日市市ふるさと学習先進事例発表会」では、学んだことを広く発信し、資質・能力の育成・伸長につなげることができた。

本単元に関する事前アンケートでは、63%の児童が地域での土砂災害の危険性は低いと答えている。これは、昨年度からの学びをもとに地域の充実した対策や取組を情報として得ているからであるとらえている。

大きな災害を体験したことのない児童にとって「防災」は身近で切実な課題とはなりにくいという側面がある。いつ直面するか分からない、重要な課題であるということは感じていても、未知で遠い存在である、震災の恐ろしさやそれに伴う様々な困難を、自分事として、切実な問題として受け止めることのできる児童は少ない。

「資質・能力」についてのアンケート結果によると、「思考力・判断力」についての肯定的評価が84%から97%と大きく向上していることがわかった。各教科で思考ツールを効果的に活用し、情報の比較・分析を行ってきた結果だととらえている。「自己肯定感」については、数値は93%と高いものの、実生活の場では、失敗をおそれたり、自信がもてなかったりという姿が見られる。

「基礎・基本」定着状況調査の質問紙の「課題発見・解決学習」の結果によると、「情報の収集」に関する内容の肯定的評価が74.6%と他の過程に比べて低く、課題を解決するために必要な資料を進んで集めたり、取材をしたりすることに課題があることが分かった。

## 【指導観】

本単元では、2学期に行った広島県砂防課による砂防出前講座での学びをもとに、土砂災害から身を守るという課題を解決することを通して、子どもたちが前向きに「地域の防災」という問題に向き合っていけるような展開をめざす。

「課題の設定」の場面では、2学期にまとめた土砂災害新聞を交流した後、実際に土砂災害が起こったことを想定して自分たちに何ができるか話し合わせる。昨年度の学びから、避難生活についてはイメージできても、災害発生時や避難時に具体的に何をすべきか分からないことから本単元の学びの必要感を持たせる。

「情報の収集」の場面では、広島地方気象台と連携してワークショップを行い、地域での防災意識を高め、実際の行動につなげていけるようにする。また、土砂災害の恐ろしさやそれに伴う様々な困難を、自分事として、また切実な問題として受け止めることができるよう、近隣の地域で起こった災害をもとに具体的な体験や事実を子どもたち自身が必要感をもって求めていこうとするような場を設定する。

「整理・分析」の場面では、災害発生時に起こり得る予想や疑問を時系列で整理しながら出し合い、新たな課題である避難所生活の訓練に焦点化する。実際の避難所生活の訓練を実施するために必要なことを考え、計画・準備・体験する。その際には、地域で防災キャンプを企画・実施されているプロジェクトEと連携し、地域ならではの情報収集に取り組みさせる。

「まとめ・創造・表現」の場面では、国語科と関連付け、得た情報や体験をもとに避難所生活訓練の意義や価値を整理してまとめたリーフレットを地域に配布する。また、プロジェクトEに避難所生活の訓練を広めるとしたらどのようなプログラムが望ましいかを提案し、地域に役立つことができるという達成感を味わいながら来年度の学びにつなげていけるようにする。

本単元は、社会科「さまざまな土地の暮らし」、「自然災害から人々を守る」、理科「台風と気象情報」、「雲と天気の変化」、「流れる水のはたらき」等、教科横断的に取り組ませる。気候と自然災害の関係、気象情報の読み取り方、水による災害が起きるメカニズムなどの教科の学びを防災という視点に落とし込み、災害に関連付け、新学習指導要領中学校理科「自然の恵みと災害」の学習につなげたい。

## 2 単元の見目標

- ・地域で起こり得る災害である土砂災害に着目し、災害発生時に最悪の状況を想定した自主的な避難についての正しい知識と情報をもとに、安全に行動するための思考力・判断力を培う。
- ・地域の行事である防災キャンプの企画・提案を通して、他者と協働しながら、地域の一員としてできることに気付き、相手意識・目的意識を明確にして主体的に取り組む態度を養う。
- ・地域と連携することにより、家庭や地域の一員としての自覚を高め、災害時に主体的に行動できる実践力を培う。

## 3 単元の評価規準

スキル	学習方法	課題発見力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングを使って災害発生時に起こり得る予想や疑問を出し、課題を発見している。</li> <li>② 自助・共助の視点から、自分自身が、また地域の一員としてできることに気付き、課題を発見している。</li> </ul>
		思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害発生時に予想される状況と習得した知識を比較・分類・関連付けながら、身を守る行動について考えることができている。</li> <li>② 見通しをもって、避難所生活訓練に関する調査活動や情報収集についての計画を立てている。</li> <li>③ 得た情報や体験をもとに避難所生活訓練の企画についての必要な情報を整理している。</li> </ul>
		判断力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 得た情報や体験をもとに避難所生活訓練の企画の目的や方法についてまとめるために必要なものを判断している。</li> <li>② 自助・共助の視点から、自分自身が、また地域の一員としてできることややらなければならないことを結論付けている。</li> </ul>
		表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ゲストティーチャーの話から得た情報や自分の体験をもとに避難所生活訓練の企画の目的や方法について資料を効果的に活用しまとめている。</li> <li>② 自助・共助の視点から、自分自身が、また地域の一員としてできることに気付き、表現している。</li> </ul>
意欲態度	自分自身	主体性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害発生時に地域のために自分たちにできることについて考えたことを積極的に友達にゲストティーチャーに伝えたり、他者の異なる意見を受け止めたりしている。</li> <li>② アドバイスを受けて災害発生時に地域のために自分たちにできることについて新しい視点からの情報を収集したり、発信するための表現活動に取り組んだりしている。</li> </ul>
価値観倫理観	他者や社会	自己肯定感	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習を振り返り、自分の学習へ向かう姿勢を肯定的に捉えることができている。振り返りを行い、自己の成長を実感している。</li> </ul>

#### 4 指導と評価の計画(全20時間)

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p style="text-align: center;"><b>課題の設定 (1)</b></p> <p>実際に土砂災害が起こった時の避難の仕方について話し合う。</p>	<p>○土砂災害の種類やメカニズムは分かったけど、実際に土砂災害が起こった時にどのように避難すれば、自分や家族の身を守ることができるのだろう。</p> <p>○3年前に広島市でも大規模な土砂災害が発生したね。</p> <p>土砂災害が身近に起こることを認識し、本単元の学びの必然性が生まれる。</p> <p>土砂災害が起こった時、どのように行動すればよいのだろうか。</p>	<p><b>【社会科】</b> 「自然災害から人々を守る」の学習活動との関連</p> <p>■2学期にまとめた土砂災害新聞や広島土砂災害の新聞記事等を提示する。</p>
<p style="text-align: center;"><b>情報の収集 (3)</b></p> <p>情報収集のための計画を立てる。</p> <p>ゲストティーチャーを招き、防災出前講座でワークショップを行う。</p>	<p>○土砂災害の危険性がある場合に、まず、何をすればよいのだろう。警報の種類もいろいろあるし…専門家の話を聞きたいな。</p> <p>専門家の立場からの話を聞きたいという思いが高まってくる。</p> <p>○「大雨になりそうだ。」「山がくずれそう。」このような状況ではどう行動すべきなのだろう。</p> <p>災害から身を守るためには必要な情報を入手し、地域の実態や状況に応じた早めの避難が大切であることを理解する。</p>	<p><b>【社会科】</b> 「情報をつくり、伝える」の学習活動との関連</p> <p><b>【理科】</b> 「雲と天気の変化②」の学習活動との関連</p> <p>■土砂災害に関して、これまでの他教科での学習を想起させる。</p> <p>■広島地方気象台の気性情報官や気象予報士と連携し、ワークショップの流れを把握する。</p> <p>■ワークショップを振り返り、考えたことをワークシートに書かせ、次時につなげさせる。</p>
<p style="text-align: center;"><b>整理・分析 (1)</b></p> <p>出前講座を通じて分かったことや考えたことを整理しながら話し合う。</p>	<p>○実際の避難について考える時には、地域のハザードマップをもとにするといいね。土砂災害時の避難場所は学校のA棟と管理棟の2階以上と市民センターだね。</p> <p>大雨が降ってきた時に身を守るためにどんなことが考えられるかについての思いが高まってくる。</p>	<p>■ハザードマップを使って、実際の避難について考えさせる。</p>
<p style="text-align: center;"><b>情報の収集、整理・分析 (1)</b></p> <p>自宅で被災した場合に、最善と考えられる行動について話し合う。 (本時)</p>	<p>○これまでの学習をいかして、どんな警報が出ているか、どんな前ぶれが起きているかなどの情報をもとに考えたよ。</p> <p>科学的な姿勢で、大雨災害と向き合いながら状況に応じた避難について考え、訓練の大切さを実感し、課題の解決へ向かう。</p>	<p>■気象庁が制作した「津波からにげる」のDVDを視聴し、日頃の避難訓練をいかした自主的な避難により想定外の状況において、たくさんの尊い命を救うことにつながったことを知らせる。</p>

## 整理・分析, 振り返り (1)

避難の方法について収集した情報を比較・分類し、これまでの学びを振り返る。

○いつ・どこで・だれと・どんな警報が出ているかという状況をもとに避難方法を整理すると、いざという時にあわてないね。

時系列で整理することで避難生活という次の課題へのつながりが見えてくる。

## 課題の設定 (2)

前学年の学びをつなぎ、避難生活について知っていることを話し合う。

○避難所の一人当たりのスペースがこんなに狭いとは思わなかったよ。不安な避難生活を笑顔で送ることができるよ、自分たちにできることはないかな。

防災キャンプのコーナーを企画するという新たな課題を発見し、実際の避難所生活を体験してみたいという思いを引き出す。

地域に役立つことがし隊！四季が丘スマイル防災隊出動！

## 情報の収集, 整理・分析 (3)

避難所生活を体験し、備えのポイントについて話し合う。

○実際に避難所生活を行う上で必要な「もの・こと」は何か、避難所生活の訓練を実施する上でのポイントを考えよう。

これまでに防災キャンプを体験したことのある児童から情報を収集し、さらに詳しく知りたいという思いが高まってくる。

プロジェクトEの方を招き、防災キャンプへの思いを聞いたり、意見交換をしたりする。

○プロジェクトEとみなさんと一緒に、3回目の防災キャンプを成功させたいな。

小学生でも避難所で果たせる役割があることを知るとともに主催者の遺体を受けたことから自分たちのコーナーを企画してみたいという意欲が高まってくる。

## 整理・分析, まとめ・創造・表現 (5)

避難所生活の意義や価値を整理し、自分たちができる防災キャンプのコーナーの企画に向けて話し合う。

○低学年に国語の学習で作った物語本の読み聞かせをするコーナーを提案するよ。  
○国語の学びをいかして資料を提示しながら、なぜ、そのコーナーが必要なのか分かる企画書をつくろう。

相手意識・目的意識を明確にした企画書を作成し、提案しようとする気持ちが高まっていく。

企画書をつくり、提案内容を発表し合う。また、提案内容をお互いに評価し合い改善する。

○相手を説得させるために、具体的な数値を使って書こう。  
○実際に参加した人の言葉を入れて、説得力をもたせよう。

■これまでの学びをまとめさせるとともに、個々の学びの変容を見取ることができるよう、「知識」、「スキル」、「意欲・態度」、「価値観・倫理観」に対応した視点から振り返らせ、新たな課題につなげさせる。

【算数科】  
「単位量あたりの大きさ」の学習活動との関連

■実際の避難所の様子が分かる資料を提示し、避難生活の困難さについて気付かせる。また、地域で小学生の高学年や中学生の力がたよりにされているという話を紹介し、児童の意欲を喚起する。

■体育館で疑似体験を行う。一人当たり畳1枚分のスペースで仕切りをして実際に経験することで、「何のために」「何を行っているのか」を児童自身に自覚させるようにする。

■前学年での学びを振り返り、自分たちが考えた防災訓練の内容について整理する。

■プロジェクトEの方のお話から、来年度の6年生としての役割を期待しているという心強い言葉をいただき、児童の意欲を喚起する。

■グループごとに課題を解決するために必要な「ひと」・「もの」・「こと」は何かを考えさせる。また、誰に、なぜそれが必要なのかを説明させる。

【国語科】  
「伝えよう、委員会活動」の学習活動との関連

実行（２）

企画書をプロジェクトEの方に提案する。

○ポイントは笑顔だね。つらい避難所生活だからこそみんなで助け合い、笑顔で過ごせるために避難所訓練が必要なんだ。

プロジェクトEのみなさんと一緒に自信をもって防災キャンプの企画を進めていこうとする。

振り返り（１）

活動全体を振り返り、本単元の学びを最高学年でどうつなげていくかを考える。

○6年生になっても、この学びを続け、防災キャンプを成功させたいな。  
○地域の一員として、四季が丘の人々に防災キャンプの意味や価値を伝えていきたいな。

地域の人々の願いや考えを大切にし、その実現に向けて自分たちができることを続けていこうとする思いが高まる。

【国語科】  
「六年生におくる字をすいせんしよう」の学習活動との関連

■本単元での個々の学びの変容を見取ることができるよう、「知識」、「スキル」、「意欲・態度」、「価値観・倫理観」に対応した視点から振り返らせる。

## 5 本時の目標

自宅にいる時に大雨が降ってきたという状況設定のもと、警報の種類や土砂災害の前兆現象をもとに最善と思われる行動について話し合い、自主的な避難の必要性や避難訓練の大切さに気付くことができる。

## 6 本時の展開

	学習活動 (時間)	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準 (評価方法)
課題の設定	1 本時のめあてを確認し、課題解決への見通しをつ。(5分)	◇これまでの学びをつながげながら、「災害はいつどこで起こるか分からない。まさかではなくいつか。」であることを児童から引き出し、本時の課題へ向かわせる。	
情報の収集	2 個人で考える。(5分)	◆思考ツールを活用し、さまざまな状況を設定して、考えることができるようにする。 ・私は、テレビでどんな警報が出ているかを確かめます。 ・ぼくは、ラジオが聞けるようにしておきます。停電の時にも役立つからです。 ・私は、持ち出し袋を用意します。	【思考力】 ・災害発生時に予想される状況と習得した知識を比較・分類・関連付けながら、身を守る行動について考えることができる。(ワークシート)
	3 グループで話し合う。(10分)	◇個人の考えとなぜそのように考えたのかという根拠を交流し、比較・分類しながら状況をもとに整理できるようにする。 ◆ホワイトボードを用意しておき、必要に応じて活用し、グループで話し合ったことを視覚的に交流できるようにする。	
整理・分析	4 全体で交流を通して様々な視点の判断材料を交流する。(15分)	◇児童の発言をつながげながら、時系列にしたり、グルーピングしたりして板書し、学びの足跡や広がりが見えるようにする。 ・私は、状況判断が大切だと考えました。なぜなら、自分の命を自分で守れるようにしておきたいからです。 ・大雨警報が出された場合、その後も激しい雨が降り続けば、土砂災害警戒警報が出る可能性があります。夜の避難は危険なので、明るいうちに早めの避難をします。 ・ぼくは、その後の防災気象情報に注意します。最新の情報を確認することが大切だからです。 ・私は、持ち出し袋を確認します。情報が出された時間帯によってすぐに避難することもあるからです。 ・ぼくは、家族に連絡をします。連絡がつかない場合も考えられるので、家族でどこに避難するかなど、もう一度確認をしておきたいです。 ・テレビやラジオの情報とあわせて、防災廿日市の放送をしっかりと聞いて、あわてないようにしたいです。 ・前の時間に見たDVDのように自分で判断する情報をたくさん集めておきたいです。 ・避難することになったら、自分の家のことだけでなく、おとなのおじいちゃんやおばあちゃんが安全に避難できるように、荷物を持つなどお手伝いをしたいです。	
まとめ	5 自己の学びを振り返る。(10分)	◇既存の知識をつながげながら振り返りを書かせるようにする。	
振り返り	◎ 自宅で大雨が降ってきた場合に自分はどう行動するのか、理由や根拠を挙げて説明することができる。		
	◎ ・気象庁からどんな注意報や警報が出されるか、土砂災害の前ぶれはないかをしっかり確認・判断して、状況に応じた避難をし、自分の命を守りたいと思います。 ・学校や地域で行われている避難訓練の大切さがよくわかりました。これからは避難訓練に積極的に参加したいです。 ・日頃から先生や友だちの話・放送をしっかりと聞いて、落ち着いて行動できるようになりたいです。 ・小さい学年の子が頼りにしてくれるような高学年としての行動をとりたいです。 ・4年生の時に習った、近所に住んでいる人と顔見知りになっておくことの大切さがよくわかりました。地域の防災訓練に参加したり、出会った時にはきちんとあいさつをしたいと思います。		【思考力】 ・災害発生時に予想される状況と習得した知識を比較・分類・関連付けながら、身を守る行動について考えることができる。(ワークシート)

## 7 板書計画

1 / 29 (月)

④ 自宅で被災した場合に自分は  
どう行動するか、理由や根拠を  
挙げて説明することができる。

情報・状況

行動

それはなぜ？


--

--